

法音寺物語

(中)

慈悲深く堪忍強く守りなば
至誠の道もひとり渡れむ

杉山辰子



ぶつきょうかんかきゅうさいかい
仏教感化救済会の信仰

こうせんいんであんりゆうだいほうに
広宣院殿安立大法尼(杉山辰子先生)の御遺訓

一、お国を熾にするために仏教の信仰をする。

二、我が働きはみな、世のため国のための働きでなければならぬ。

三、教化の事業は自己の実践が第一であり、教化の

事業には必ず社会事業施設をなすべきである。

四、人格を尊び、自己の一生を生かすよう、徳の

力を以って一切を解決すべきである。

五、心の迷い、煩惱の除滅を心掛けねばならぬ。

|| 修養の友(出世の葉)・第139号 ||

みょうほう じつこう
妙法を実行すれば

ひんじや ふくしや
貧者も福者となつて喜びの日が来ります。

びょうしや へいゆ よろこ
病者も平癒の喜びが来ります。

あい もの わか
愛する者に別れるの苦に会いて泣く人も、善処の道が得

られます。

おのれ もくてき たつ ひと
己の目的の達せざる人も、成功域に達する事が出来ます。

はんもんおお ひと ならみ き
煩悶多き人が悩を去る事も容易です。

しゃかい けんき
社会より嫌忌せらるる人々でも仏は平等に慈悲を垂れ給

い、安穩を得せしめ給う。

ばんぼう なか ばつくよらく しんじつどう
万法の中、抜苦与楽の真実道は、妙法蓮華經の実行であり

ます。

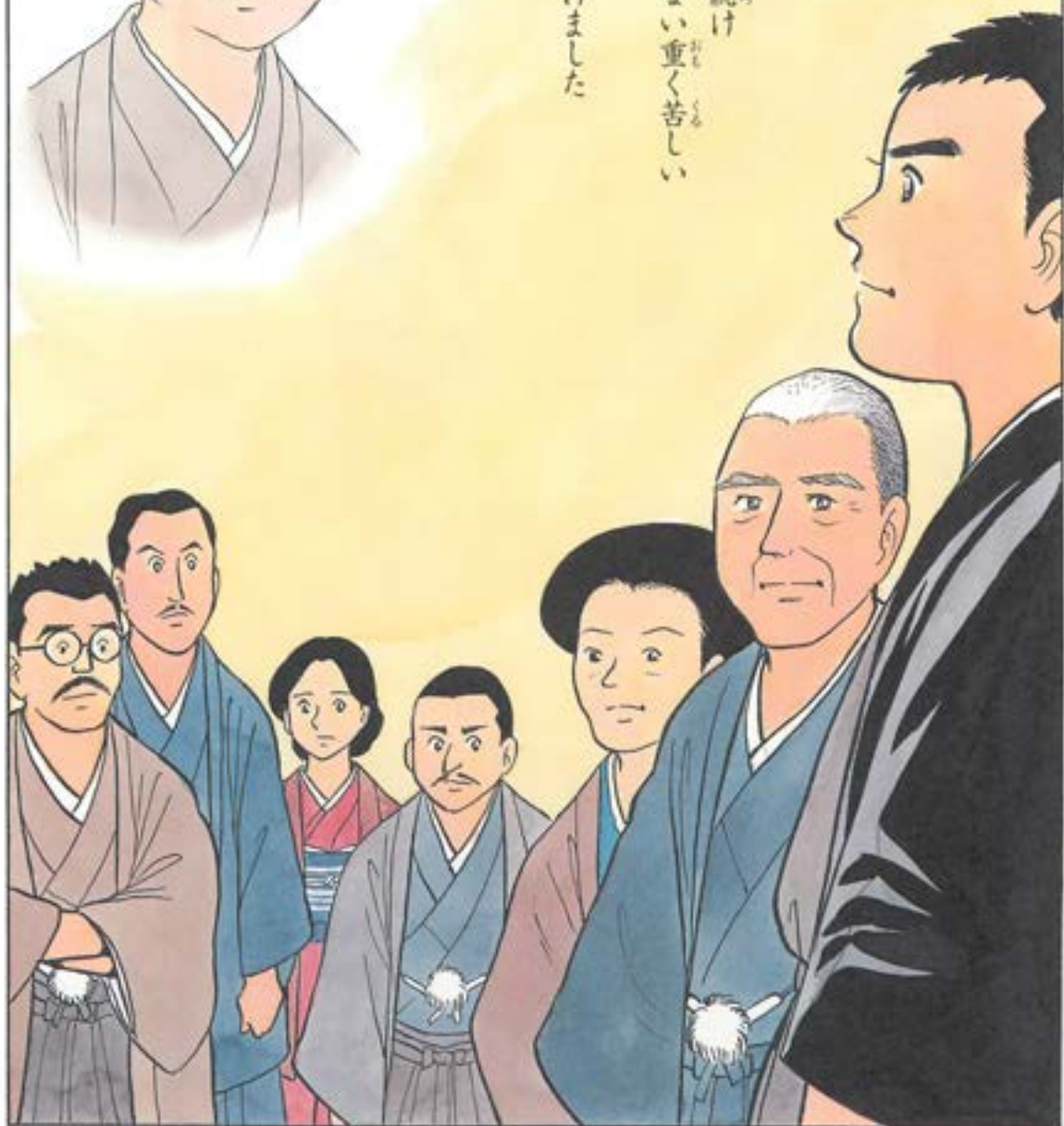
|| 出世の葉・第18号 ||

※「ライ病」という言葉は、過去様々な偏見を伴つて用いられ、多くの関係者の尊厳を傷つけてきたこと等を踏まえ、現在「ハンセン病」を用いておりましたが、本書では大正から昭和初期にかけての史実でありますので、必要最小限の範囲で使用いたしました(6頁〜16頁/22頁〜27頁)。

一人から始まる
今日一日から始まる



仏教感化救済会は
人々に力と喜びを与え続け
戦争という出口の見えない重く苦しい
時代の中でも力強く
菩薩道の実行を説き続けました



第一章 だいいっしやう

福祉 ふくし (仏教感化救済事業 ぶつぎやうかんかきゆうさいじぎやう) の源 みなもと

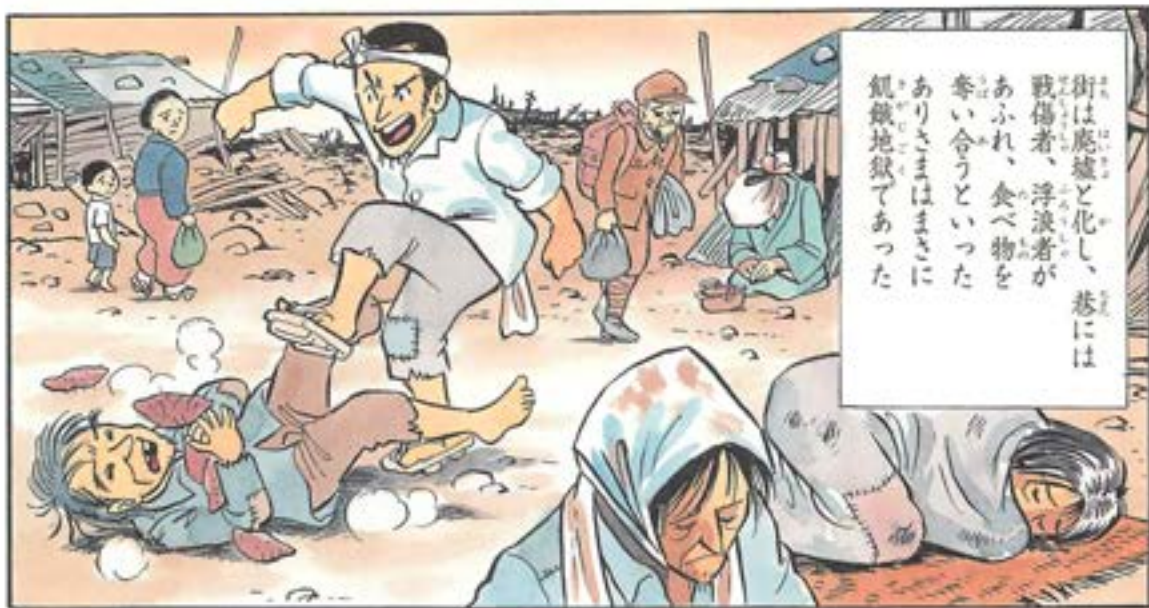


昭和二十年八月十五日
戦争は終結した

しかし、平和が
もどってきた
わけではない



街は廃墟と化し、巷には
戦傷者、浮浪者が
あふれ、食べ物を
奪い合うといった
ありさまはまさに
飢餓地獄であった



これから一体
日本はどうなる
のだろう



今の日本には
なにが必要
なのだろう





修一郎さんが初めて
杉山会長と会われたのは
大正十三年のことでした

そして、自分が探し
求めていた「幸せ」は
杉山先生のもとで
善隣行を実行する
ことによって得られると
確信し

仏教感化救済会に
入ったのです
昭和二年
二十六歳のことです

この時代、社会問題と
なっていたのが
「ライ病患者」です

当時、「ライ病」は業病、天刑病と
人々から恐れられていました
ライ病と他人に知られたら最後
人間として扱われないばかりか
一族郎党すべてが
世間から仲間はずれに
されたのです

しかも
この病気は「遺伝する」と
誤解されていたため
家族にすら恐れられ、一生
土蔵に閉じこめられたり
家族縁者がうしろ指を
さされぬよう、二度と
故郷に帰るな、と家を
追われた人もありました



神社、仏閣などの門前で
物乞いする人々の中に
そうした流浪患者が
大勢いました

法華経の信仰とは
「人を助け救うこと」と
教える杉山会長は
自ら、救いの手を
さしのべました



大正四年東京、異郷の
ライ病専門病院に
資金援助と奉仕活動
御殿場の神山復生病院
多摩の全生園、熊本の
菊池患振園などの
慰問を続けたのです





私は会長に連れられて
ライ病療養所は何度も
訪れたことがあるので
驚きませんでした
彼は「こんな所に人間が
住めるのか」と思った
ことでしょう

屋根は葺き板がずれ
壁には大きな穴、戸や
障子からは隙間風
部屋は薄暗く
畳はブカブカ
不潔な室内！

救きつばなしの布団は
膿が染みついてひどい
悪臭を放っていました

ずいぶん建物の
痛みがひどい
です
早く何とか
しないと……

ええ……
それは十分
承知しております
しかしお金がなくて
どうにもならない
のです

ライ病を患った者は
家族から見放されて
いるんですよ！
治る見込みのない者に
家族が一生、金銭の
援助を続けること
思いますか？

ほとんどが入所
するとそれっきりです
連絡しても返事も
来ません……
収入がないのに患者には
食べさせねばなりません
赤字が増えるばかりです



私たちの仕事は
山のように
ありました



彼は雨、風を
防ごうと屋根に
のぼり、壁土をこね
建物の修理に
とりかかりました



あんもんは
どが人ね？...



わずかずつては
ありますが患者さん
たちも心を開き
始めてくれるようにな
りました

主任さん、所長が

ゆうてたけどほんまに
オレたちの病気、あなた
らのゆうこと聞いてたら
治るんかいね？



今、あなたの持っている悪因以上の善因ができれば、たとえ不治の病といえど治すことができます

それには南無妙法蓮華経とお題目を唱え徳を積むのです

やってみるよオレ！

フン！
題目くらいで病気が治るわけなか！

ナムミヨウホウ
レンゲキヨウ
ナムミヨウ！

やかましかア！

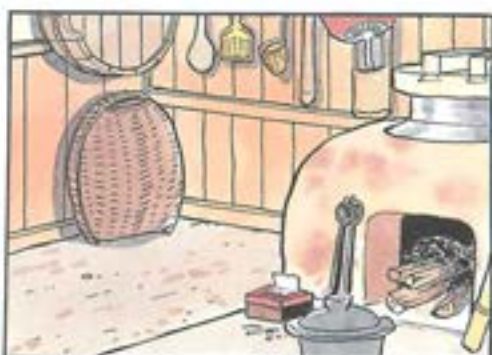
信仰によって病気を治そうとする試みは容易ではありませんでした

所長！
あなた救済会の方が特効薬を持ってくるってゆうたろが！！

援助しちやるゆうたんなら金だけもらてさっさと帰ってもらたらよかばい

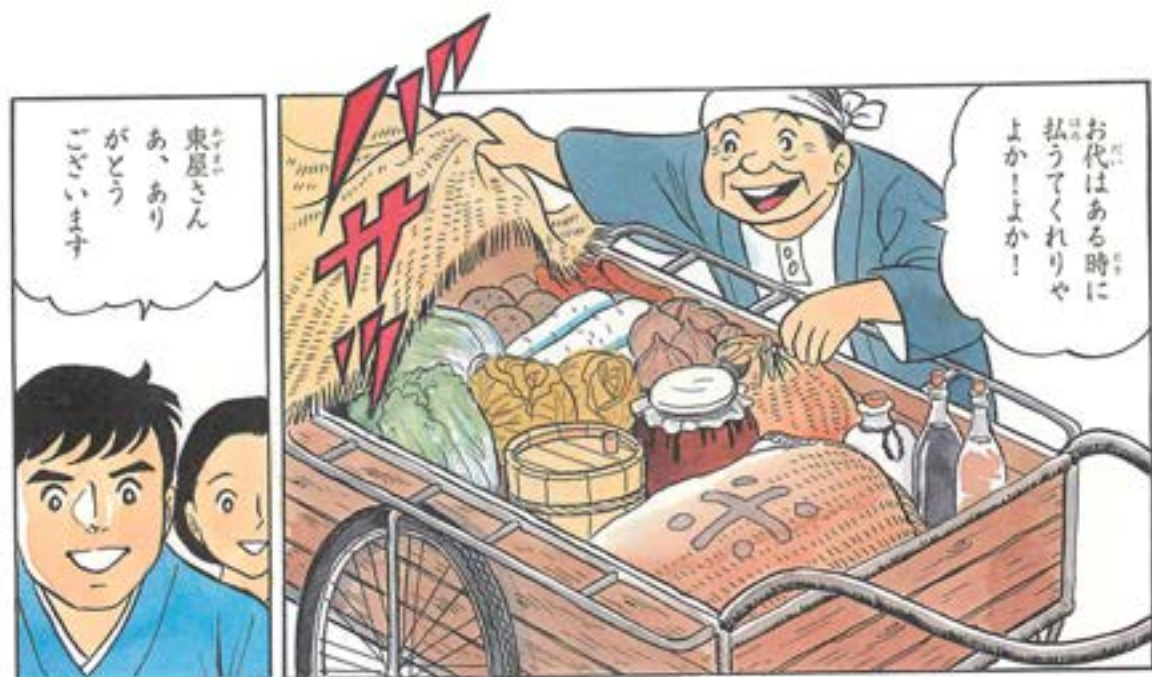


単行本「博多どんたく」は毎年五月に行われていますが、この年（昭和三年）は昭和天皇の即位を祝い、特別に十一月にも行われました。









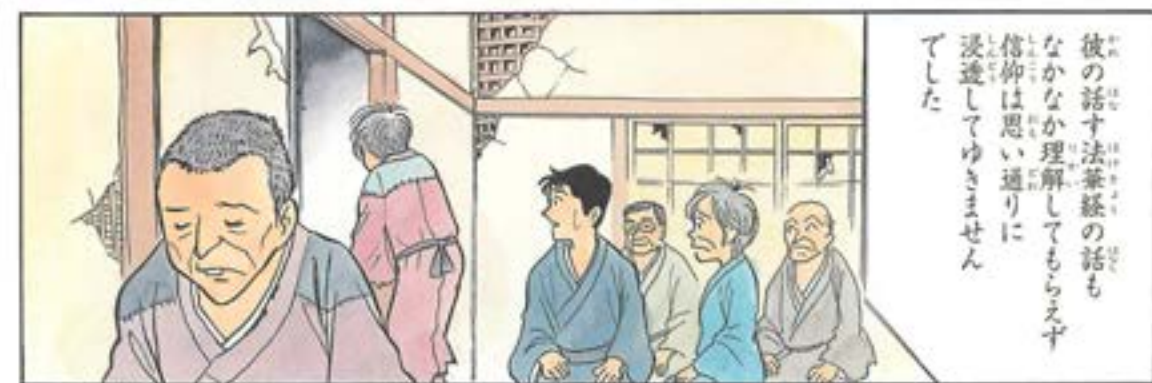
お代はある時に
払うてくれりや
よか！よか！

東屋さん
あ、あり
がどう
ございます



応援してくれる人も
ありましたが
一般の人々のライ病に
対する偏見は想像を
絶するものがあり
「空気感染する」と
いった誤った知識も
加わって

患者のそばにいるという
だけで蔑まれた時代でした



彼の話す法華経の話も
なかなか理解してもらえず
信仰は思い通りに
浸透してゆきません
でした

名古屋の
杉山会長から
電報がありました

療養所の隣に
救済会の支部を
作るための材木を
送ったので、港からの
運搬を頼むという
ものでした

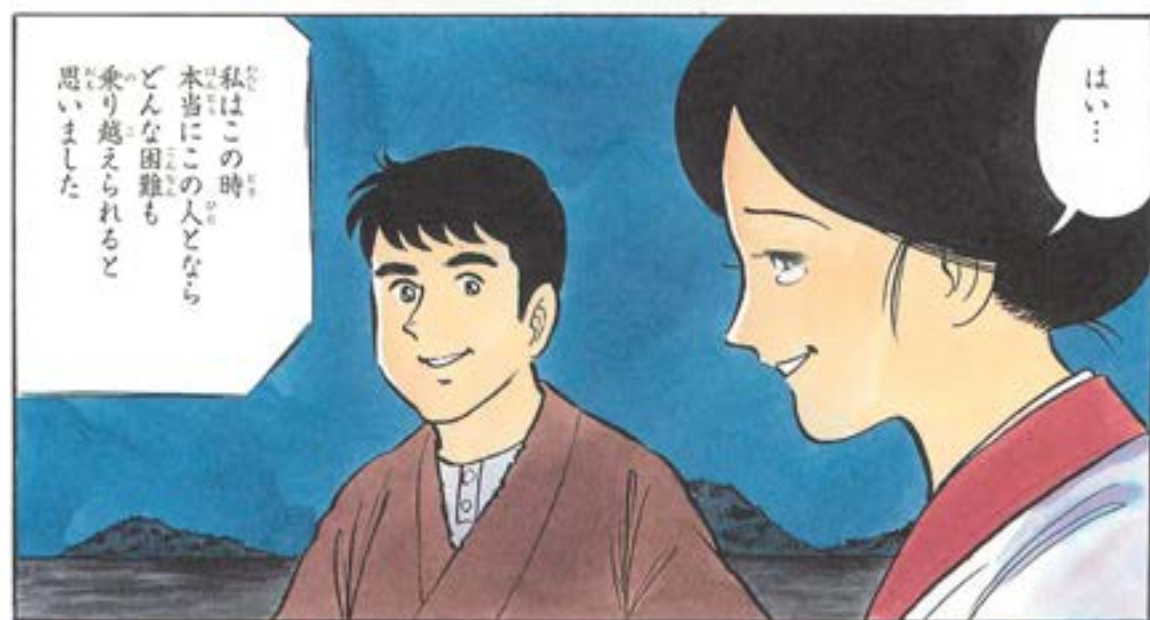
材木が荷揚げされた
博多港から生の松原までの
道のり（十六キロ）を彼は一人で
大八車を引いて運び始めました

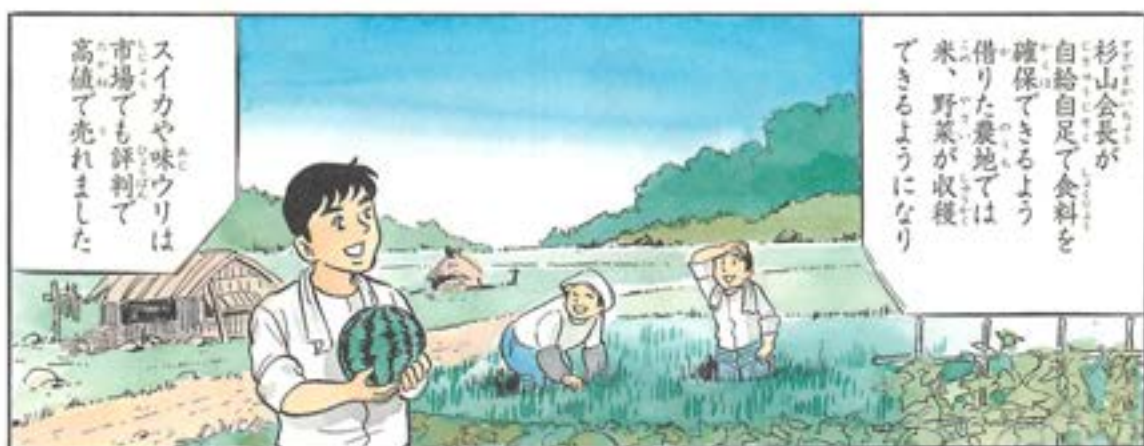
人夫代を節約し
食費など、他の費用に
回すためです

毎日、黙々と大八車を
引く彼の肩は紫色に
腫れ上がり、血がにじみ
出ていました



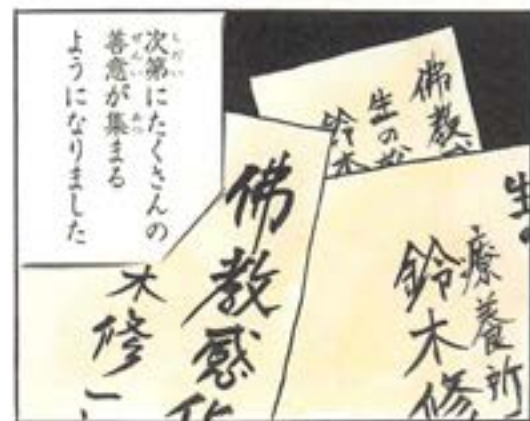






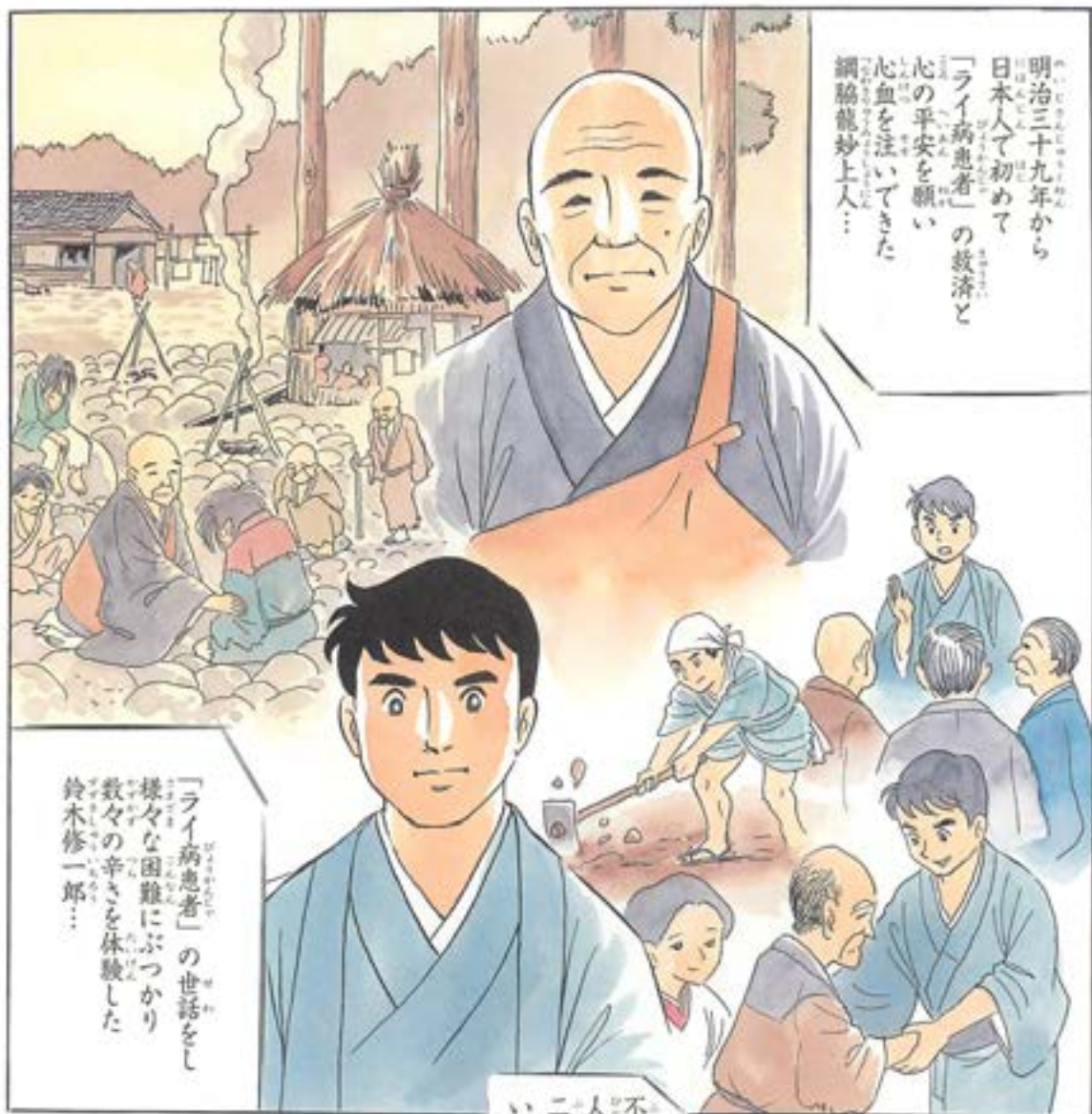








明治三十九年から
日本人で初めて
「ライ病患者」の救済と
心の平安を願い
心血を注いできた
網脇龍妙上人…



「ライ病患者」の世話をし
様々な困難にぶつかり
数々の辛さを体験した
鈴木修一郎…

不治の病に苦しむ
人々の幸せを願う
二人に、多くの言葉は
ありませんでした



